



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 20 年 (2008)

平成 20 年 正月号【80号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

鎮守の杜から『環境立国』へ……………	2 頁
新春初詣……………	3 頁
早春の行事……………	4 頁
杜の話題……………	6 頁
どんぐり通信……………	10 頁
初宮詣芳名……………	11 頁
正月社頭風景……………	12 頁



古神矢・古神札等焼納祭（どんど焼き）【一月十五日】

### 平成二十年戊子歳の新春に当たり

### 謹んでご皇室を中心とする国家の隆昌と

### 氏子・崇敬者の皆様のご清福を熟禱申し上げます

本年も社頭の大宮桜（冬桜）が麗しく咲き競う中に新春を迎えました。お陰様で昨年も大神様のご神徳を戴き、ご敬神の念の篤い氏子・崇敬者の皆様のご協力に依りまして、年間の諸祭儀及び諸行事を滞りなく順調に進捗させて頂きましたことを感謝致しております。

又第六十二回神宮式年遷宮も、奉賛会の杉並区支部設立に伴う当宮に於ける奉賛活動について、昨秋（十一月）の臨時役員総代会に於いて目標額をご決定頂き、各氏子地区でのご奉賛募金が始まりました。何卒よろしくご支援ご協力の程をお願い申し上げます。

さて、去る十一月の中頃、月面衛星「かぐや」の撮影した世界初のハイビジョンに依る「地球の入り」の映像が公開されました。暗黒の宇宙空間にぼつかり浮かぶ青い星・地球の写真パネルが、日米首脳会談に於いて福田総理よりブッシュ大統領へブレセントされたとの事であります。

例えようもない青い宝石の様な美しい青い星、このかけがえのない地球に私どもは住まわせて戴いており、生かされている命の大切さを感じざるを得ません。しかし乍らこの地球は今病んで来ているのです。各地で紛争が絶えず起きておりまして、徐々に温暖化が進み、地球環境問題が国際的にクローズアップされて来ております。



気象による台風や豪雨、洪水などの風水害、又地震などの天災が頻発し、謂ゆる天変地異悲喜交々の感が致しております。

今年の七月に

は、日本国が議長を務めて主要国首脳会議（洞爺湖サミット）が開催され、地球温暖化や資源の浪費など環境問題への関心がいやが上にも内外で高まることと思われまふ。経済成長を維持しながら、京都議定書の達成はもとよりのこと、如何にして英知を結集し温暖化ガス排出量削減等、戦略的に地球規模の環境問題に対処しなければならぬかが問われております。

そもそも私どもは、自然と共生されている神々のご存在やその信仰を忘れ、物の豊かさばかりを追求し、その利便さを享受している内に、この様な状況を引き起こしてしまつたとも云えるのです。

## 鎮守の杜から『環境』へ

宮司 鎌日紀彦

今から百十七年前の明治二十三年の四月、初めて横浜へ来日したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が「日本では、どうしてこうも樹木が美しいのであろうか」と、日本上陸の第一印象を記しておりますが、当時日本中の殆どの森が鎮守の杜の様な森厳な神性が感じられた事と思われまふ。

昨年六月にテレビ番組で俳優の地井武男氏の「ちい散歩」で当宮が紹介されました。緑深い森に感嘆して表参道より神門に参入。緑の樹木に囲まれた森厳な社殿前で参拝のあとインタビュを受けました。画面には、緑いっぱい鎮守の杜の様子が放映されておりました。

樹木の豊かな森厳な佇まいの伊勢神宮や明治神宮（実は人工の森なのです）へ出かけると、よくホッとすると云う言葉を耳にしますが、鎮守の杜の森厳な雰囲気（心）を打たれるのです。神社の神域を杜（もり）と呼ぶ様に、神社神道では伝統的に森を大切に参りました。自然そのものに親しみを持って接し、森（杜）には神々がお宿りになり、

お鎮まりになつて居られるところとして大切にしてきたのです。森と共に生かされ生きてきたと云う、日本文化の心の原点もここにあるのです。それだからこそ緑豊かな神社にお参りすると多くの方々が安らぎと清々しきを感じられるのです。

又森は空気や水を清浄化し、動植物を育みそでて来ました。森の中には木の香りが漂い、それらが私共の五感（視・聴・嗅・味・触覚）を心地よく刺激して呉れます。その香りの正体は、樹木が発散している「フィトンチッド」と云う揮発性の物質で、その香りなどを浴びて健康増進を図るのが森林浴と云われております。その他木々の葉には排気ガスなどの有害物質を吸収する浄化作用や、光合成によつて新鮮な酸素を作り出す働きがある事も解つてきました。鎮守の杜の樹木や葉の緑色は、眼を休ませ、心を落ち着かせて呉れます。謂ゆる癒しの効果もあるのです。

今その森が危機に瀕しつつあり、地球規模で自然破壊が進行しているのです。この時に当たり私どもの遠祖の古代より培つてきた、日本の霊性（神道）の自然観や生命観を注目し、見直して頂きたいと思ひます。

日本列島にまだまだ残つている瑞々しい緑の生態系を保つて来た杜の環境保全の道、これらの取り組み方が国際社会での地球環境保全に対する佳きお手本になるのではないのでしょうか。この様な日本の国柄を再発見して頂き、鎮守の杜から学び『環境立国』を目指すことに依つて、やがて我が国が国際的に大きく貢献出来る日が訪れることを願つて止みません。

今年も 大神徳の輝く宮

祈りと感謝の宮

安らぎと癒しの宮

心のふるさと鎮守の宮

大宮八幡宮

の新春のご神前にお詣り戴き、神々との変わりなきご神縁を更に深くお結び戴き、幸せ多き年でありますようお祈り申し上げます。



あけましておめでとうございます

# 新春初詣

## 観世流能楽師野村四郎神能「翁」 小笠原流除魔神事藝目の儀・大酌式

元旦午前零時宮司の打つ初太鼓を合図に開門。平成二十年戊子歳の年明けです。陸続と初詣の列が表参道を埋め尽くす中、先ず社殿に於いて、観世流能楽師野村四郎氏による新春を言祝ぐ神能「翁」が奏され、宮司奉仕により厄除開運大祈禱（一番祈禱）を斎行。午前8時に歳旦祭が執り行われ、

国の隆昌と世界の平和、氏子・崇敬者の平安が祈られます。翌2日午前10時より、小笠原流宗家小笠原清忠氏による新春除魔神事「墓目の儀」、続いて「大酌式」が奉納されます。又、新年にあたり元日より連日、ご家族のご健勝や除災、会社・団体等のご繁栄を祈り「新春初祈禱」を奉仕致しております。八幡大神様のご神徳を戴かれ、新しい年が清々しく幸多き年でありますようご祈念致します。

### 平成二十年春の祭典と主な行事

- 1月1日 神能「翁」  
厄除開運大祈禱（一番祈禱）
- 1月2日 歳旦祭  
小笠原流藝目の儀・大酌式
- 1月3日 元始祭
- 1月7日 昭和天皇祭遙拝
- 1月15日 古神札焼納祭（どんど焼き）
- 1月25日 初天神「大宮天満宮」
- 1月26日 文化財防火デー消防訓練
- 2月3日 節分祭
- 2月11日 紀元祭
- 2月12日 初午祭「大宮稻荷神社」
- 2月春分 春季皇霊祭遙拝
- 2月下旬 梅盆栽展
- 3月上旬 木瓜盆栽展
- 4月3日 神武天皇祭遙拝・本宮遙拝
- 4月29日 昭和祭
- 5月3日 春の大祭（尚武祭）  
稚児行列（3日）
- 5月5日 ~
- 5月17日 大宮八幡宮の杜新能
- 5月24日 裏千家献茶式
- 毎月1日 朔旦祭（どなたでもご自由）
- 毎月15日 月次祭（ご参列出来ませう）
- 毎月最終の土曜日又は日曜日  
大宮八幡宮フリーマーケット

### 毎月・お朔日参りを

致しましょう

## 謹賀新年

平成二十年元旦

### 大宮八幡宮

代表役員 宮司 鎌田 紀彦

責任役員

高橋 住雄

五本木 徳治

田木 千城夫

梅田 清夫

瀬沼 春男

藤枝 宏友

黒長 団

黒澤 浩一

松島 四郎

毛塚 克彦

監査 細井 嘉次

古谷 孝治

関澤 兼司

総代 大宮地区

請井 勝雄

五本木 徳治

関 又治

毛塚 克彦

青木 龍雄

根岸 辰行

方南地区

三枝 栄治

田木 千城夫

黒澤 浩一

大塚 喜一

相川 貞雄

方南北地区

高橋 住雄

細井 嘉次

細野 文善

岩田 太雄

岩崎 憲章

鈴木 憲章

生形 勝巳

梅田 清夫

松村 康夫

齊藤 洋一

笠原 紀一

玉村 恭男

和田西地区

飯高 今朝

浅川 静男

古谷 孝友

藤枝 宏治

森川 純一

葉梨 俊郎

松ノ木地区

瀬沼 芳威

松島 一男

瀨沼 四男

高野 寿男

関澤 兼司

松島 武治

兼務社社総代会長  
堀ノ内熊野神社  
大高 正朝  
成宗白山神社  
岩田 和保  
尾崎熊野神社  
安藤 雄次

# 大宮八幡宮 早春の行事

## 古札焼納祭(どんど焼き神事)

小正月の1月15日、午前10時よりご神前で「月次祭並古神矢・古神札焼納奉告祭」を執り行い、次いで社殿前広場の特設斎場で古神矢・古神札焼納祭(どんど焼き)が盛大に斎行されます。

初詣の参拝者の方々が納められた古い破魔矢やご神札・御守・注連縄等をうず高く積み上げ、お祓いをし、祝詞を奏上して、玉串拝礼のあと、火鑽神事が行われます。これは轆轤鑽を使って古代そのままに浄火を熾くす神事で、古来よりこの炎にあたること無病息災・健康になると信じられています。そして、燃え盛るお焚上げの火の前で神職等が大祓詞を奏上し、一年間の感謝と除災をお祈り致します。

又、この日は、当宮敬神婦人会(りんどう会)の皆様のご奉仕により、厄除ぜんざいが授与されます。



## 文化財防火デー

文化財防火デーは戦後の法隆寺金堂壁画の消失の教訓から1月26日に設けられた日で、当宮では毎年、この日に消防訓練を行っております。恒例の消防演習は、当宮自衛消防隊と杉並消防署並びに杉並消防団のご協力によって行われ、社殿への一斉放水等が実施されます。

## どんど焼きにご協力をお願い

近年、問題視されているダイオキシン等の環境保護対策を含め、今後とも伝統行事のお焚き上げ神事を存続させる為にも、お納めの際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えないもの・生(有毒物質)の発生の恐れのあるもの(プラスチック製品等)は、その場でお持ち帰り頂いております。予めご諒承の上お持ち込みになりませぬ様ご協力をお願い致します。



- 一、納所では感謝を込めてお納め願います。
- 二、古神矢・古神札類、正月飾り(しめ縄)等をお預かり致します。(包装はお外し下さい)
- 三、人形(ぬいぐるみ除く)類は別途に人形感謝祭を行ってお納め頂いておりますので、祈禱受付へお申し出下さい。
- 一、詳細は社務所へお尋ね下さい。



演習終了後は参加された地元町会の方々や職員等による水消火器を使った初期消火訓練が消防署員の指導に依って行われます。

## 節分祭(豆撒き神事)

2月3日は節分。節分とは立春の前日、大寒の終りの日です。古くは立春を正月とし、節分を大晦日として忌み籠もる習わしも地方によってはありました。厄除けのご祈願は節分までにとの考えはこの辺に由来しています。そして、この季節の節目に皆様の開運と身体健勝を大神様にご祈念申し上げる節分祭が午前10時より執り行われます。祭典では、古儀に則り桃の弓・葎の矢で「天・地・人」を射る追儼神事が行われ、続いて社殿前にて邪気を祓う豆撒き神事が執り行われます。



※厄年(やくどし)は、古来人生の節目として特に気をつけなければならないとされている年回りのことです。本厄の前年は前厄、後年は後厄に当ります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

## 厄除け祈禱のご案内

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮に於いて、厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

## 平成二十年厄年表(数え年)

男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和60年生(24歳)	昭和59年生(25歳)	昭和58年生(26歳)
女	前 厄	本 厄	後 厄
	平成3年生(18歳)	平成2年生(19歳)	昭和64年生(20歳) 平成元年生
男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和43年生(41歳)	昭和42年生(42歳)	昭和41年生(43歳)
女	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和24年生(60歳)	昭和23年生(61歳)	昭和22年生(62歳)
男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和52年生(32歳)	昭和51年生(33歳)	昭和50年生(34歳)
女	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和48年生(36歳)	昭和47年生(37歳)	昭和46年生(38歳)
男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和24年生(60歳)	昭和23年生(61歳)	昭和22年生(62歳)

大宮幼稚園ではこの日の為、鬼の面や被りものを作り、鬼に扮した園児らが参加致します。

### 紀元祭並榎原神宮遙拝



2月11日は建国記念の日(紀元節)。神武天皇が大和国の榎原の宮に於いて、我が国初代の天皇の御位にお就きになつたこの日、全国各地で我が国の建国を言祝ぐ諸行事が行われます。

当宮では午前10時より紀元祭を斎行。神武天皇即位以来、万世一系の天皇(今上陛下は第百二十五代目の天皇)によつてしるしめされる我が国の二六六八年目のその上を偲び国運の隆昌と世界の平和

### 初午のぼり奉納募集

毎年2月の初午(本年は2月12日)は、お稲荷さんのご縁日として親しまれています。

お稲荷さんは、ご存知のように商売繁盛・家内安全など、八幡さまと並んで広く親しまれた信仰のある神様で、当宮でも境内末社に大宮稲荷が祀られています。本年も大宮稲荷神社の初午祭を賑々し

をご祈念申し上げます。その後、神門前広場の齋場で榎原神宮を遙拝。「紀元節」の歌を斉唱致します。

### 大宮稲荷初午祭

2月初めての午の日に、稲荷大神が京都・伏見の峰に天下りされた由緒から、この日には全国各稲荷神社で初午祭が斎行されます。当宮境内社の大宮稲荷神社でも、12日の午後1時より初午祭が執り行われます。真新しい百数十本の朱色の初午のぼりの立ち並ぶ稲荷神社に、のぼり奉納者等崇敬者の参列のものと祭典が斎行され、五穀豊穣をはじめとして、皆様の家内安全や商売繁盛を祈念致します。



のぼりの立ち並ぶ稲荷神社に、のぼり奉納者等崇敬者の参列のものと祭典が斎行され、五穀豊穣をはじめとして、皆様の家内安全や商売繁盛を祈念致します。

く執り行いたいと存じますので、左記により商売繁盛・家内安全等を祈願されまして「朱色のぼり」を是非ともご社頭にご奉納賜りますよう、ご案内致しお願い申し上げます。

#### 記

一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円(出来れば一対二口以上でお願い致します)のぼりには、御氏名(又は会社名)を入れさせていただきます。

又、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社、境外社の谷中稲荷神社の各稲荷社でも初午祭が執り行われます。

### 第24回梅・木瓜盆栽展

毎年、立春過ぎ境内の梅の花が綻び始めた頃、大宮八幡宮梅の会の主催により、第24回の「梅・木瓜盆栽展」が2月下旬より4月上旬まで開催されます。

先に梅の盆栽が開花し、境内の梅と併せて満開に、続いて木瓜の花も咲き揃い、芳しい香りが参拝者の心を和ませておられます。



### 桜まつり開催

お花見シーズン、先ず境内の桜が花を綻ばせ、続いて当宮を中心とする和田堀公園(旧境内)一帯は善福寺川沿いに数千本の桜が妍を競い、まさに桜一色となります。

そして、これら桜の開花に合わせ3月下旬から4月初旬まで「大宮八幡桜まつり」を開催致します。期間中の土曜・日曜・祝日に限り、夜間参拝(午後8時まで開門、開門中は和田堀公園への出入り可能)を実

施。ライトアップされた桜に篝火の炎揺らめく幻想的な雰囲気の中、甘酒と季節限定の桜薯蕷饅頭を味わい、風情たっぷりの夜桜をお楽しみ頂けます。また、「夜桜の神遊び」として雅楽(管弦)と神楽舞の奉納演奏も予定されております。



### 戌の日まいりは

当宮の子育八幡さまで

安産祈願のご祈禱を!

ご祈願お受けの方には安産帯着田帯を授与しております

授与しております

子授祈願・初詣も随時お受けしております

### 戌の日早見表

(平成20年1月～平成20年5月)

1月	11日(金)	23日(水)
2月	4日(月)	16日(土)
3月	11日(火)	23日(日)
4月	4日(金)	16日(水)
5月	10日(土)	22日(木)

赤字は大宮の戌の日です

# 杜の話題

## 大宮八幡祭り(秋の大祭)

残暑も厳しい長月、秋の爽りを大神様に感謝するとともに、皇室を中心とする我が国の隆昌、氏子・崇敬者各位の安泰と発展を感謝する大宮八幡祭り(秋の大祭)が9月16日を中心に斎行されました。

宵宮祭が15日夕刻より、翌16日午前10時には例大祭・氏子奉幣祭が、神社本庁より平岩東京都神社庁長が献幣使として参向のもと、又田木役員が氏子奉幣使として斎行され、秋の収穫の感謝と皇室国家の安泰を祈念致しました。来賓に、各神社の宮司様・宗教界・政界等の代表の方々にお参り頂きました。特に姉妹神社竹駒神社千葉宮司様、小野・早坂両役員様は10回目の交流参列となりました。



6時よりは第22回神輿合同宮入りが斎行され、各氏子地区より八基の神輿が威勢良くご神前に練り込み、一斉に担ぐ神輿振りは壮観そのもの。城西随一とも云われ、境内は熱気と興奮の坩堝と化しました。

このほかにも数々の神賑行事が行われ、天保六年撰の『江戸名所図絵』にも「三日の間、市立ちて賑はへり」と記されているように、好天に恵まれ終日多くの参詣者でご社頭が賑わいました。

## 第9回菊被綿飾りきくのきせわた

菊被綿は重陽の前日9月8日に菊の花を真綿でおおって菊の香りを移し、9日の朝に露で湿ったこの真綿を顔に当てて若返りを願うもので、平安朝の女性の間で贈答にも用いられておりました。



当宮では平安時代に行われていた、この重陽の節句の宮中行事「菊被綿飾り」を平成11年の「天皇陛下ご即位十年」を奉祝して再現。平成19年は、第9回菊被綿飾りが9月9日より17日まで大宮八幡祭りを奉祝して行われました。

★マスメディアにも取り上げられ朝日新聞・読売新聞・神社新報や中外日報に掲載されました。

## 第7回十五夜の神遊び

旧暦8月15日は十五夜、旧暦9月13日の十三夜の豆名月に対し、芋名月と呼ばれ、片方だけ見られることを片月見とされて来しました。十五夜は9月25日



したが当宮では前日の24日夕、第7回十五夜の神遊びを斎行、仲秋祭や雅楽奉奏、コンサートが行われました。神遊びとは神慰め、神祭りのこと。この日、生憎の雨模様となりましたが雲間隠れに名月が顔を覗かせた夕刻先ず献灯神事が行われ、篝火として境内千百基の竹灯籠の浮き蠟燭に宮司以下神職と参列の皆様が次々と点灯。午後6時よりは仲秋祭が斎行されたあと、神楽殿にて神楽舞と雅楽が奉奏されました。次いで、午後7時より杉並区文化協会後援の「月の宮コンサート」を開催。竹燈の炎揺らぎ鳴虫のすだく神域で、吉岡龍見氏と富元清英さんご夫妻等による尺八と箏・三絃の演奏が行われ、千三百人の陪観者を魅了しました。この後、清涼殿では月見の宴が和やかに催されました。

## 白山神社遷座祭

当宮の兼務社である成田東2丁目

鎮座の成宗白山神社で、かねてより進められていた御社殿修復工事が美事竣工し、神社本庁献幣使・平岩昌利東京都神社庁長参向のもと去る9月2日夕刻、本殿遷座祭が斎行されました。

今度の修復は同社が本年平成20年に御鎮座九〇〇年を迎えることからその記念事業の一環として行われ、御社殿御屋根銅板葺替、社殿内外壁の塗替などを主とするもの。境内参道整備も合せて行われました。定刻、祓の料及び大麻にて新殿清祓が行われ、宮司以下祭員奉仕により本殿遷座祭を斎行。仮殿祭に続き御座の儀が行われ、浄閣裡、神御は仮殿を出御、新装なった御本殿へと御遷座、ついで本殿遷座本殿祭がいと厳かに斎行され、白山大神は新本殿を静宮の常宮と神鎮まられました。



## 秋季皇祭神嘗祭明治祭各遷拝齋行

9月23日秋分の日、宮中三殿の皇霊殿では天皇陛下御親ら秋季皇霊祭を執り行われ、この日午前9時より宮司以下祭員奉仕による

り秋季皇靈祭遙拝が神域内齋場において齋行されました。皇靈祭遙拝は当宮では初の齋行となるもの。

また10月17日には伊勢神宮の神嘗祭に合わせ神嘗祭遙拝が、11月3日には明治祭遙拝が、それぞれ初齋行されました。



### 大宮小百三十年祝賀会が



当宮と緑りの深い杉並区立大宮小学校が創立130周年を迎え、去る10月6日、記念式典及び記念祝賀会が催されました。

大宮小は明治10年、当宮祀官中野氏が自宅の一部を校舎として開校、校章は当宮の鉦と鏡を形どっています。6日午前同校体育館で記念式典が行われた後、午後には当宮清涼殿で祝賀会を開催、区長や当宮宮司等による鏡割り、立正倭成会杉並教会の杉並太鼓の演奏などが行われました。

### 峰岸徹さんがご参拝

俳優の峰岸徹さんが去る10月14日、お孫さんのお宮参りでご二家お揃いで昇殿参拝されました。峰岸さんは俳優座養成所出身で「天国に一番近い島」などの映画や舞台で幅広く活躍されておられます。



### 七五三詣賑わう

七五三はこの年頃の子供の成長を祝う古くからの風習に由来するもの。当宮では11月15日に月次祭に併せて七五三祝祭を齋行、お子様方の健やかなご成長をご祈願致しました。また週末には、連日お子様連れのご家族様が多勢参拝し、ご社頭は晴れ着姿のお子様で賑わいました。親子三神が固い絆

で結ばれている子育て八幡さまのご神前にて、可愛なお子様のお祝い(ご祈符)を受ける方々が続きました。



### 第29回杉並大宮菊花展

杉並区内在住の菊愛好家の方々によって、丹精込めて作られた数々の作品が出品される杉並大宮菊花展。第29回の今年度は、10月25日から11月25日にかけて当宮神門内特設展示場で開催されました。この菊花展は杉並区の後援、京王電鉄株式会社、サミット株式会社の協賛を頂き杉並大宮菊の会主催により毎年催されています。今回も盆養菊、盆栽菊、懸崖、七五三の文字菊や小菊盆景も多数出品され、会員の皆さんが丹精込めて育てた二百鉢の菊花が爽秋のもとを競っていました。毎年、七五三詣の小さな紳士淑女たちの記念写真の撮影スポットにもなっております。



また、11月7日の審査会で宮司賞以下各賞の受賞が決まり、12月3日表彰式が執り行われました。以下、受賞者です  
宮司賞 井上良介氏(天女名所)  
杉並区長賞 本橋利夫氏(靖国の雪)  
会長賞 植島清利氏(國華越山)  
京王電鉄賞 中村幸輔氏(富士の新雪)  
サミット賞 井上良介氏(國華弥生)

### 杉並大宮菊の会研修旅行

サミット賞 本橋利夫氏(神代の桜)  
みどりの会会長賞 倉本榮子氏(國華聖者)  
審査委員長賞 五本木徳治氏(國華越山)  
日本香菊会賞 渡辺忠雄氏(真田の黄金)  
本柄賞 佐久間亨氏(聖光の朝)  
藤枝賞 依田和氏(精興右近)  
八幡前通商栄会賞 五本木秀子氏(雷光の朝)  
金賞 6名  
新入賞 4名  
協力賞 8名

杉並大宮菊の会では去る11月16日、同会初の研修旅行として茨城県笠間市の笠間稲荷神社の菊花展見学を実施し、会員16名が参加致しました。第100回を数える「笠間の菊まつり」、境内立ち並ぶ各種菊花がところ狭しと展示され、会員一同自分の菊作りを生かすべく熱心に観察・研究しておられました。



### 杉並宗教者懇話会

杉並の宗教者が一同に会し、相互の宗教の理解と協力を図る杉並宗教者懇話会の「イスラム」理解と対話の集い」が、11月5日代々木上原の東京ジャーミイにて開催されました。今回の集いでは「ウドウ」と呼ばれるお清めの後、アスル礼拝。開会に当



### 神宮式年遷宮奉賛活動始まる

たり当宮宮司が挨拶を行い、日本ムスリム協会による「イスラームとは」「東京ジャーミイに到る歴史」と題し講演会が行われました。

平成25年の第六十二回神宮式年遷宮奉賛会杉並区支部が、去る7月18日に設立され高橋住雄当宮責任役員が区総代会副会長の立場から副支部長に就任されました。当宮でも11月4日の総代会を経て、いよいよ奉賛活動が始まりました。式年遷宮に必要な費用は総額550億であり、うち22億が募財で賄われますが、東京都15億のうち、杉並区支部は8千万円を目標に、募財活動が展開されています。伊勢神宮の20年ごとの式年遷宮は千三百年余りの歴史を有し、世界に類のない日本固有の美しい伝統文化の中心であります。日本最大のお祭り式年遷宮に、皆様の真心からのご奉賛をお願い申し上げます。各氏子地区の役員・総代の皆様にお取り纏め頂いております。

### 発足一周年で御垣内を りんどう会が清掃奉仕

当宮敬神婦人会（りんどう会）で



は去る9月1日、鎌田会長、高橋・五本木・堀友各副会長等役員会員20名が参加し、当宮神域の御垣内の清掃ご奉仕を致しました。

今回の清掃奉仕は同会が昨年の同日発足してより丁度一年を迎えたことから実施されたもの。午前8時半、御社殿にてお清めの修祓を受けたのち、御本殿周りの禁足の御垣内に参入、落ち葉拾いなどの清掃奉仕を実施。ついで午前10時の朔日祭に参列致しました。

### 敬神婦人大会石川大会参加

全国敬神婦人連合会の第58回大会が去る9月27日金沢市の石川県立音楽堂で開催され、当宮敬神婦人会より鎌田会長、高橋・堀友副会長、提箸事務局長が参加しました。

大会は久邇神社本庁統理、鷹司神宮大宮司の祝辞に続き議事に入り会務報告、大会宣言採択などが行われました。

### りんどう会初の懇親旅行

りんどう会初の初の懇親旅行『富士山本宮浅間大社参拝と秩父宮記念公園散策』が去る11月6日行われ、31名の方々にご参加頂きました。

当日早朝、当宮を出発し一行は東名高速を進み、先ず富士宮市の富士山本宮浅間大社に到着。正式参拝を行いました。昼食後、富士裾野ヤクルト工場見学に続き、静岡県御殿場市の秩父宮記念公園を散策、最後に御殿場浅間神社を参拝、雄大な富士山の自然を満喫しながらの一日を過ごしました。



### 神符奉戴式を厳修

平成20年の新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員にお頒ちするご神札の奉戴式が11月8日斎行されました。

神符奉戴式では、御神前に於いて大宮大麻・大宮三宝荒神などの神札に御神霊をお遷しし、また神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大神様に奉告後、氏子崇敬者を代表し高橋責任役員及び神札頒布責任者の森川カツノ氏と小松延江氏にご神札が授与されました。



新年には、

各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいご神札をお祀りして清々しい一年に致しましょう。

### 和田地区で国旗掲揚運動

当宮氏子である和田地区の和田自治協力会（会長藤枝責任役員）と聖堂通り商店会（会長小林正雄氏）では、我が国の古来の伝統や歴史に由来する「祝日」の持つ意義を改めて考えると共に、国旗を掲げて皆で祝おうとの趣旨のもとに、国旗掲揚運動が推進されています。愛子内親王殿下のご生誕を契機に国旗掲揚運動が始められ、祝祭日には国旗日の丸が翻翻とひるがえっています。また「笑顔であいさつ ふれあい通り」を街のスローガンに掲げ、あいさつ励行の町としても取り組まれております。



### 境内清掃奉仕

毎月第2日曜日早朝より立正佼成会和泉・方南支部の皆様が、そして毎月1日・15日には方南寿会・白陽クラブの皆様が境内の清掃活動をご奉仕頂いております。立正佼成会和泉・方南支部様は平成元年より、白陽クラブ・方南寿会様は昭和57年よ



り、お参りの方々が気持ち良く参拝できま  
すよう、参道や境内の落ち葉を  
掃き清めて頂いておられます。特  
に秋から冬にかけて落葉の季節、  
多大なご苦勞を頂いております。



### 大提灯をご奉納

このほど、当宮氏子の方南北地区  
峯睦会世話人一同様と崇敬者のO.F.  
Oシステム並西新宿デン  
タルクリニッ  
ク院長鈴木  
道也様より、  
社殿大提灯  
並びに提灯台  
がそれぞれ  
奉納されまし  
た。



### 秋の爽りに感謝 新嘗祭齋行

勤勞感謝の日の11月23日午前10  
時より新嘗祭が齋行されました。こ  
の祭典は五穀豊穣を祈る春の祈年祭  
と一対のまつりで、新穀を大神さま  
にお供えして秋の収穫を感謝する祭  
典です。宮中を始め、全国津々浦々  
の神社でも行われています。

新潟県三條市

在住の阿部修様  
よりコシヒカリの  
早苗を奉納頂き、  
当宮幼稚園の稲  
田で園児達が丹  
誠込めてお田植え  
をして育て収穫さ  
れた初穂をはじ  
め、篤志家やB.S.  
GS、氏子・崇敬  
者、各企業よりの  
新穀や清酒、野菜  
の供進品が庭積  
神饌として献納  
されました。



### 小・中学生社会科見学

また、豊穣に感謝すると共に、  
事業の繁栄にも感謝して当宮崇敬  
の企業、りんどう会会員等120名を  
超える方々のご参列を頂き、盛大  
に祭典が齋行されました。



10・11月に  
かけて、区内の  
小・中学校よ  
り多くの児童・  
生徒さんが、社  
会科見学で当  
宮をお参り致  
しました。当宮  
の創建の由来の  
説明を受けつつ熱心にノートをとり、  
初めて聞く笙・箏・築・龍笛の雅楽の

音色に感心しておりました。

### 第17回 杉並花笠祭り

第17回目を迎えた地元の初冬の風  
物詩「杉並花笠祭り」(主催…サミッ  
ト(株)、(株)サミット・コルモ、大宮八幡  
宮)が12月8日(土)に開催されました。  
当日、午前10時より御社殿にて  
杉並花笠祭開催奉告祭を齋行の後、  
メインステージにて山形県知事齋藤  
弘氏、JA全農山形・県本部長高橋  
武氏等による御神酒の鏡開きを皮切  
りに各種の催し物が次々と執り行わ  
れ、特に午前と  
午後2回、花  
笠踊りが東京  
山形県人会花  
笠踊り愛好会  
や地元商店会  
婦人部とサミッ  
ト役員の皆さ  
まによつて奉納  
されました。



参道では山形の郷土料理・芋煮  
や御神酒(六歌仙)等が振る舞われ、  
山形特産の農産物や特産品などの  
露店がところ狭しと立ち並び、凡  
そ3万人の参拝者で賑わいました。

### 訃報

明治神宮常任顧問(元権宮司)副島廣之氏  
が昨年11月24日、ご歸幽になられました。  
副島氏はご生前、殊の外当宮へのご崇敬  
篤く、春秋の大祭にご参列頂いております。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ガールスカウト40周年記念式典

当宮を育成母体とするガールス  
カウト東京都第62団が、発団より  
40年を迎え、12月9日(日)、ご来賓  
に全国神S協議会会長代理の都  
神S協議会会長猿渡昌盛氏(大國  
魂神社宮司)、同副会長・都159団代  
表の今井涼子様、GS日本連盟都  
支部副支部長野中優子様をはじめ、  
神Sや杉並の友好団代表の方々、  
当団リーダーIOG、スカウトら100名  
近い参列のもと奉告祭と記念式典・  
祝賀会が、盛大に開催されました。

### 新春初詣旅行募集

新春吉例の伊勢参宮旅行。今回は、  
平成20年1月23日(水)25日(金)にかけ  
て二泊三日の「伊勢参宮と奈良斑鳩・  
河内路めぐりの旅」を実施致します。  
新幹線にて名古屋へと向かい「伊  
勢神宮」御垣内参拝をして、新年  
のご多幸をお祈り致します。翌日、  
「関宿旅館玉屋歴史資料館関町並  
み資料館」を拜観ののち、「法隆寺」  
と「龍田大社」を参詣。最終日は、  
河内源氏発祥の地「壺井八幡宮」  
と当宮ご祭神の御陵「応神天皇陵」  
を特別参拝、次いで藤井寺市「道  
明寺天満宮」へと参拝致します。  
お誘い合わせ頂き、皆様のご参加  
を心よりお待ちしております。  
★詳細は、当宮社務所(03-3311-0105)まで  
お尋ね下さい。(平成20年1月10日×切り)



### お砂場遊び

お砂場は学年を問わず子ども達が大好きな遊び場の一つです。「何して遊ぶ？」と聞くと必ずといっていい程「お山作るう」「泥だんご作りたい」との声が返って来ます。

ある日、園庭で遊んでいる二人の男の子が「先生、お砂場がすごい事になってるよ！」と嬉しそうに呼びに来てくれました。手を引かれ行ってみると、そこにはドーンと大きなお山が出来上がっていたのです。「このお山どうしたの？」と尋ねると「僕達二人で作ったんだ」と目を輝かせて今までの工程を話してくれました。早速、仲間に加わり作り始めると「入れて入れて」と子ども達が次々に

集まり、気付けば十数人の輪が出来ていました。

力のある年長さんが長いスコップで砂を盛り、「川や滝も作るう、もう一つお山作るう」とアイデアを出し合う子ども達。年長・年中さんは年少さんに作り方を教えてあげたり、道具を譲ったりと、子ども達の思いやりや優しさに心が温まる場面も沢山見られました。最後は色とりどりの葉っぱやドングリを飾り付けて完成です。ふと周りを見るとドングリケーキや葉っぱピザなど様々なお店も開店していました。想像を膨らませ、自然からの贈り物も上手に取り入れて遊ぶ子ども達は、やはり遊びの天才ですね！

これからも冬の寒さに負けず、自然と触れ合い、子ども達と楽しい遊びを展開させていきたいと思えます。

教諭 服部 仁美

### 「切画教室」開催

10月28日〜30日の3日間にわたって、切画師風祭竜二先生指導による「切画」教室が年長児を対象に開かれました。

初めてカッターを使うこともあって、クラス毎に4名ずつお母さん先生にも手伝ってもらい、自分の名前のひらがな一文字を切り抜いて千代紙や色んな色をはめ込み、色紙に貼って仕上げました。



中には漢字を切りたいという子もいて、各々個性豊かな作品が出来上がりました。

風祭先生のブログにこの時の様子等が掲載されており、ぜひアクセスして下さい。

URL <http://blogs.yahoo.co.jp/kingakiri/>

### 大宮幼稚園運動会

秋晴れの10月6日に第58回運動会が開催されました。年長児のオープニングから始まって、子供達は競技や遊戯、演技を両親や遠方から駆けつけた祖父母に披露して沢山の拍手をもらいました。



又、来賓でご出席戴いた当宮責任役員の高橋様・田木様方の応援もあつて盛大の裡、楽しく心に残る運動会を終了しました。

### 結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成十九年九月一日) 十二月二日

- 鈴木 淳・五月 酒井 茂・香織
- 貝塚 茂樹・夕有子 岩本 一伸・未緒
- 村尾 輝忠・明子 矢作 洋樹・寛恵
- 井上 雅貴・イリナ 嘉山 夕三・友子
- 石森 啓靖・由記子 塩田 行宏・京子
- 町田 浩二・優利奈 大塚 陽介・ミナ
- 鴨内 悟史・敦子

### 挙式者芳名 お詫びと訂正

先号の社報第79号の挙式者芳名中、浅川 淳様のお名前を「純」と誤記致しました。謹んでお詫び申し上げます。

### 大宮八幡宮が育成母体 BS・GSスカウト募集

お問い合わせは、当宮社務所へ

ボーイスカウト 杉並13団

ガールスカウト 東京62団

スカウト 募集中

小学一年生から 各学年ごとに入学入団できます。

### 緑豊かな都心の杜。 正統派神前式

成人式 卒業式

衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿

03 (3312) 7515

# 初宮詣芳名


(平成 19 年 7 月 16 日 ~ 平成 19 年 11 月 23 日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

関根雄介	町野拓己	北岡穂乃美	眞崎実世	渡部裕稀	清水啓介	菊田航輔	相馬愛華	白石涼	伊藤万由子	西田朱里	清水渚	大山慶人	田代亮太	野村琉生	岩田美結羽
栗山愛梨	青柳琴弓	山崎朱夏	石橋卓磨	渡邊俊太朗	久保田究	根崎健翔	井上寿都	吉田璃音	長澤美羽	守屋亮馬	新倉幹史	下川遥	小池陽田	若林淳	岩田丈
小濱僚佑	伊藤穂乃夏	劍持大地	濱優斗	榎原結梨	山本蒼史	北條靖人	石松眺太郎	三本葉里	武田純之助	中川尊瑠	宮崎莉空	貫井愉加	影井塔子	山田衣璃子	松本梨生
阿部眞大	五島乃愛	福永颯汰	今井勇樹	高野展	大塚夏歩	渡邊葉	大越光太郎	菅健人	村上航平	花香亮太	森田燦珠	中島隼士	高橋鉄太	岩崎秀弥	居波巨紀
上原奈空	勝島空太	島村香帆	菅原雪	竹中淳之助	藤尾爽	大嶋諒	大竹涼太	鈴木穂佳	陽田花音	武田龍憲	小椋心海	高橋果鈴	原田路生	岡田理央	山田愛令
北川桃愛	藤島康介	竹田圭汰	蜂矢心夏	浅野雄太	加賀光昭	木村優太	山成夏美	土屋祐結	関遼太	守安功雄	釜堀瑞文	儀岡更咲	渡邊裕樹	木村亮介	三神葵
小市健太郎	藤原幸太	松本悠希	稲垣奏子	深水理瑠	神尾聡太	萩野谷和致	石河大知	松澤緑大	新田隼平	平田充紀	町井れい	斉藤風	中澤ゆい	荻和奈々	平芽実
矢田莉乃	島崎由羅	菊池咲葵	山口真央	折原心絆	冨下祥太郎	小林吾輝彦	田中瑞己	杉崎海斗	白鳥敦也	高橋珠人	曾根夕雅	中澤ゆい	沼田祐来	大木馨子	倉重遊
天野結彩	森田光貴	原志帆	藤枝つる	井上兆侍	原田創真	鈴木美夏海	菅野裕也	安部幹太	棚本ほのか	奥ノ矢皓司	荒井はるね	山田美朗香	山本遼太郎	高見仁榮	小高ひかり
林瑠菜	白石隆真	渡邊璃来	瀬川カンナ	寄立優人	北鳥航大	野見山莉央	三ツ川裕翔	吉田幸	松江天音	太田晃士郎	小田航汰	伊藤優那	井上愛唯	赤松真綾	大井怜奈
黒澤莉帆	富田拓海	藤村一生	住谷拓都	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	栗山柚	山口菊千代	牧島ゆい	浅野瑞樹	伊藤晴馬	佐原大和	横上竜之介	河崎透夜
石原青依	早川史都	上野山拓海	止野華子	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
小川花穂	柿島瑚子	三澤柚日	油田彩子	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
磯大樹	出雲翔琉	中澤緋莉	丸井翔太	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
岡田将真	溝延隼人	宮本匠	小川果夏	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
長谷川泉	三浦瑠理	樋口洗一	中嶋琉偉	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
大和日陽菜	小林璃音	石藤七虹	高橋梨紗	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
田辺渚沙	水田望弥	柏原由奈	折原瑞季	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
三瓶凜太郎	山田佳朋	荒井星莉	浜端利政	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
清田零王	細矢啓介	中島海智	猪狩菜花	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
宮坂明宏	鹿野愛深	中條響	岡諒哉	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
宮崎想代	尾身帆香	林昊生	吉田菜穂	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
石井綾姫	加美千颯	山本永久	山内瑛仁	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
高橋皇虎	那須梨々花	佐野創太	中村柚葵	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
森健人	内藤愛梨	松井奈央央	島田理央	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
福與眞一郎	作間廉	笹川颯斗	木村樹英	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
本嶋陽菜	杉多百合	飯塚碧	広野光理	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
阿尾暎太郎	松田周	村上輝音	金子青空	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
安東爾季子	佐藤慶人	岩間大洋	古庄莉奈	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
瀧野和	松田さみ	平野美音	川井真琴	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
高野彩吹	松田雄貴	岡本楓太	廣瀬優輝	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
松元美樹	加登亮成	金澤優芽	東大耀	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
内藤翔太	岩田陽之輔	川又紗友里	池田悠華	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
森川晃之介	寒竹麻友奈	山田大輝	小泉政仁	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
鈴木康生	白田真実	野村安里	久保田龍仁	高橋あかり	高見風帆	奥田彩奈	南青帆	山口倅弥	吉岡陽日	菊川匠	田村健悟	伊藤晴馬	宇佐英雄太	藤本大基	上野みお
				増井悠乃	奥田響	竹内美月	林田琉和	土屋信朋	飯沼里夏	石井清太郎	永山黎	持田綾乃	太田賢志郎	長田望	



# 平成20戊子年迎春



新年にはご祈祷(ご祈願)をお受けになり、清々しい一年に致しましょう



元日零時、宮司の報鼓と俱に開門



新春を言祝ぐ神能「翁」の奉奏



厄除開運大祈祷(一番祈祷) 齋行



元日早朝、多摩清水社にて若水汲み



歳旦祭にて神楽「浦安舞」奉奏



立正佼成会庭野会長ご参拝

**大 宮 第80号**  
**平成20年 新春号**  
 平成20年1月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**  
 〒168-8570  
 東京都杉並区大宮2-3-1  
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100  
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp



小笠原流新春除魔神事、家元奉仕



御守を求める参拝者で賑わう社頭

